特別支援教育コーナー

「この子らを世の光に」　通常の学級での特別支援教育の推進を図る

校　長　吉川　文章

『この子らを世の光に』と『この子らに世の光を』の違いについて

「を」と「に」が逆になれば、この子どもたちは哀れみを求めるかわいそうな子どもになってしまいます。しかし、この子らは、みずみずしい生命にあふれ、むしろ回りの私たちに、そして世の人々に、自分の生命のみずみずしさを気づかせてくれるすばらしい人格そのものであります。 この子らこそ「世の光」であり、「世の光」たらしめるべく、私たちは努力しなければなりません。糸賀先生は最後の講義で「この子らを世の光に・・・」の言葉とともに、大きな福祉の思想を私たちに託して逝かれました。

「近江学園ＨＰ抜粋」

「この子ら**を**世の光に」これは、日本の特別支援教育の草分けであり、その人生を全て、知的に障がいをもつ方々に捧げられた近江学園創設者　糸賀一雄（いとが　かずお）先生が残された銘言です。「障がい」をマイナス要素と考え何かしてあげようと施しをするのではなく、むしろそれを一つの「個性」ととらえ、その子が光り輝く存在になるよう支援を尽くす。

本校では、通常の学級において、「この子ら**を**世の光に」の言葉をこんな風に解釈しています。

- 通常の学級は３０人を超える集団です。発達に困り感のある児童がその中で生かされていくためには、その児童への支援とあわせて、他の児童への支援も必要となります。
- 学級経営の中で、その児童が生かされる（光り輝く）ための他の児童への理解啓発が求められます。
- 教師は、特別支援教育の専門性を高める中で、どの児童の目標やニーズにも合った授業を展開するための指導力を身に付けることを目指します。
- 一斉指導の中に、より個々へのきめ細かい支援が生まれます。特別な支援を必要とする児童にとってわかりやすい指導は、他の児童にとってもわかりやすいものとなります。
- 発展的な学習をする児童への支援も目指します。「25m を目指す枠」の夏季水泳指導を５，６年生対象に設けます。おのずと通常の枠では、よりレベルの高い指導が可能になります。
- 「ことばの教室」の先生からの「コンサルテーション（専門的な立場からのアドバイス）」は大きな追い風です。
- 外部の専門家からのコンサルテーションも適宜受けながら、より細かく手厚い支援を目指します。教員を志望する大学との連携（ティーチングアシスタント）も活発に行います。

これは、本校が目指す特別支援教育の理想のイメージです。「スター（才能開発教室）」もこういった理念に基づくものです。学校便りでは、「特別支援教育コーナー」の欄を設けて、本校の特別支援教育の推進についてさまざまな発信をしてまいります。